

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 藤井 信
 新潟県山岳協会
 長岡市学校町3-11-7
 TEL 0258-32-4835

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 横山征平
 岩船郡関川村下関1100-1
 T/F 0254-64-0469

理事長に就任して

新潟県山岳協会理事長

遠藤家之進 正和



思いですが、今しばらく見守っていただきます。

四月の評議員総会で理事長という大役に着き、早3か月が過ぎました。国体二巡目対策について県体協のヒアリングを含め、協会業務を処理してきましたが、責任国体のまとめ役としてその任の大変さに改めて身を感じています。

幸いに、藤井協会長の適切な指示をはじめ、井出前理事長のアドバイスをいただき、なんとか対応しているところとです。

藤井協会長も会長就任の挨拶で述べているように、協会が対応する業務も種々の問題が山積しております。その対応に迫られています。そのため責任団体としての若い人材育成を主体としたスタッフを整え動き始めました。経験ある先輩諸氏からみれば、はがゆきも多々感じるところもあると

各種協会行事の中でも国体に関係する行事は年間を通して多く、その対応も難しく事務処理も大変です。加えて近年の少子化による18才人口の減少、趣味・娯楽の多様化により若い人の登山者がいなく、いきおい山岳会の高齢化が進み、会活動の沈滞ムードの現状で、二巡目国体に向けての選手の発掘・強化は深刻な問題を呈していると考えています。

青少年の選手の確保、発掘には、どうしても高体連の協力なしでは対応できないものと考えています。高校山岳部活動は、登山活動を通して人間形成を行っていることを承知していますが、国体参加もスポーツを通じての人間形成の一環ととらえ、協力を願いたいと思っております。山岳協会の行事は、国体ばかりでなく、各委員会が所掌している行事も実のあるものとするためにがんばっています。そのため協会に所属して

新山協顧問紹介

いる各山岳会からの参加協力なしではできませんので、多数の参加をお願いします。時にはマンネリ化し、参加する魅力もない行事とならないよう委員会も検討しますので、意見を私をはじめ委員会に提案をお願いします。

先日、山岳関係の資料を整理していたところ、弥彦山翁記念碑前で藤島氏、斎藤氏、

井口氏、立川氏、小早川氏、花井氏、山田氏、上村氏の面々が写った高頭祭参加のスナップ写真が出てきました。今は故人となられた各氏から色々指導を受けました。先輩諸氏の足元にもおよばない若輩者ですが、協会発展の一助となるよう動こうと思っておりますので、尚一層のご指導をお願いします。

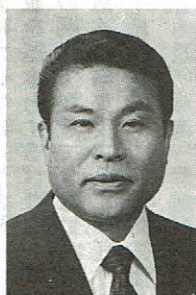
新潟県山岳協会の運営と第六十四回国民体育大会新潟大会の対応について、今後助言とご協力をお願いすることで、次の二氏に顧問に就任していただきました。

○真島 一男氏



〈プロフィール〉
 昭和七年長岡市生まれ
 昭和二十六年長岡工業高校卒業
 (山岳部)・昭和三十一年中央大学法学部卒業・昭和三十四年一橋大学大学院修了・昭和三十五年建設省入省・平成二

○馬場潤一郎氏



〈プロフィール〉
 昭和十五年栃尾市生まれ
 昭和三十四年長岡工業高校卒業
 (山岳部)・昭和五十年県議会議員初当選・平成六年県議会議員
 現在 栃尾市体育協会会長・新潟県サッカー協会副会長・新潟県剣道連盟副会長

◆平成13年度◆

各委員会活動方針②

●総務委員会

県山岳協会傘下七十四団体が、年一度はすべての山岳会代表の皆さんに、おいでいただけの評議委員会を目標としてまい進することを大目標といたします。

専門委員名簿のごとく、上中、下越と新潟地区の世話人として、上越に糸魚川の中村光信さん、中越に弥彦村の渡辺富衛さん(副委員長)、下越に朝日村の遠山実さん、新潟地区に峡彩山岳会の丸山祐一郎さんと、それぞれお引きうけいただきまして心強く思っています。

・秋に予定の「親睦登山」は下越地区での開催を計画しており、詳細決まり次第お知らせいたします。また、委員会へのご要望がありましたら、ご連絡ください。

委員長 片桐一夫

●遭難対策委員会

谷中委員長(峡彩)、高橋(下越)・楡井(峡彩)副委

員長、小田(岩広)・藤田(高体連)・三富(ピオレ)・岩崎(とーろっこ)・井(南魚)各委員の体制でスタートしました。

今年度は、例年どおり、日本山岳協会、県山岳遭難対策協議会等の関連団体の事業や会議等への参加、遭難防止リーフレットの配布に加え、新たに、県山協加盟の全山岳会を対象に、過去の遭難事故や各山岳会が実施している安全対策・遭難防止対策の実態調査等を行います。

近年、新入会員の減少や会員の高齢化が進行している山岳会が多い中で、山岳会活動の活性化とあわせて、安全対策・遭難対策の充実・強化が極めて基本的で重要な課題になっていきます。この実態調査が、県山協としての遭難対策の課題を整理する土台となるよう努力いたしますので、よろしく御協力をお願いします。

委員長 谷中隆明

●自然保護委員会

今年度は、これまで実施してきた研修会をより充実させる為、会員のご意見をくみ上げ討議したいと思えます。

・登山者のマナーの問題
・集中登山によるオーバーユース(過剰入山)について
・日本山岳協会の自然保護委員会とよく連携、トイレの問題とし尿処理、入山規制について(白神山地)、登山の裸地化(白山・大山・新潟県では巻機山)に対する、自然破壊を危惧する声など。

※自然を保護するには、自分達の百名山をつくり、(自分の所の藪山でもよい。長く山で遊ばせて欲しい)と思つたらいかにかこの山に負荷を掛けないかにかいつかうかであると思ふ。

委員長 七沢恭四郎

●中高年登山委員会

今年度より坂井委員長に代わり山田が担当させて頂くことになりました。委員も佐々木副委員長・桜井氏・加藤氏と強力なメンバーに恵まれ、今まで以上に積極的活動を進めさせて頂こうと思っております。今年度の主要行事、

一、中高年登山教室 (信州・湯ノ丸山)

二、中高年安全登山指導者講習会(三重県)

です。重点課題は、指導内容の検討で、「緊急対処法」など、安全登山に必須な内容を資料を整備、盛り込んで行きたいと考えています。どうぞ皆様のご指導・ご協力をお願い致します。

委員長 山田弘二

●海外登山委員会

今年から委員長を引き受けました。昨年の「チョモランマ」登頂、マナスル遠征等まだ足りないことではありますが数回の海外登山経験が役にたてばと考えております。

海外登山に関して何なりとご相談いただけるよう頑張りたいと思えます。

・本年度は、前委員長の片桐さんが提案されていた韓国・昌元山岳会へのご挨拶と、同じ兄弟協定を結んでいる中国/青海省登山協会への表敬訪問を兼ね、次の目標を調査したいと考えております。
・中高年を対象とした海外登山はいかがでしょうか?
ご意見をお待ちしています。

委員長 小林重一

●会報編集委員会

・新山協ニュース(B5判/4ページ)の定期発行に努める
・発行(毎月二十日)
・協会関連記事の他、加盟団体の話題や山岳情報等にも触れていきたい。

・掲載原稿締切り毎月五日の分については、当月号への掲載を基本とする。ただし紙面の関係で掲載できないこともある。編集委員会に一人
・紙面一段 十三字×三十三行。
・積極的な投稿を待つています。

委員長 横山征平

予告

去る六月十日糸魚川市民総合体育館で開催された、第一回五十嵐篤雄記念杯クライミング大会(第二回ジュニアスポーツクライミング大会/第五六回国民体育大会山岳競技新潟県予選会兼第一回安野正弘記念杯クライミング大会/第四回新潟カップクライミングの結果)については、紙面の関係で八月号に掲載します。参加された選手・役員の方皆さん大変ご苦労さまでした。

中高年登山のための登山医学 医者からみた山登り ⑥

医療法人齊藤医院院長

齊藤 宣雄

5、装備について(つづき)
 私が七月下旬の梅雨の明け
 一番気候のよいときを選び
 室堂から剣岳を登ったとき、
 天候も良く暑かったので木綿
 のTシャツで歩きました。
 室堂を出発し、雷鳥平にさ

合成繊維のTシャツに着替え
 ました。しばらくしたら肌は
 乾き、体も暖かくなり再び風
 雨のなか剣山荘まで行動を続
 行できました。
 小屋に着いてからも肌着は
 乾いており快適で、合成繊維
 の良さを再認識いたしました。
 話は変わって暑さから身を
 護ることも重要です。
 ・その為の装備について
 熱中症の予防に帽子をかぶ
 り、日焼けの予防に長袖のシャ
 ツを着たり、サンスクリーン
 を塗ることで、残雪期は、

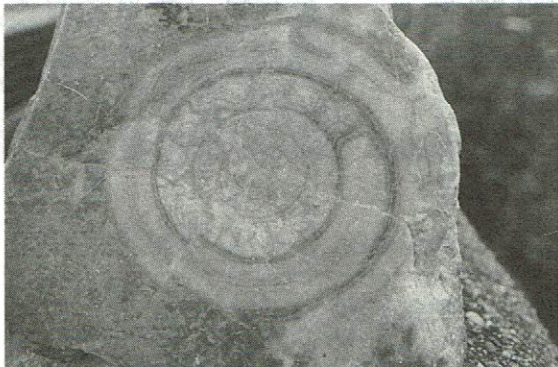
雪首にならないようサングラ
 スをかけ、唇が乾かないよう
 に、リップクリームを塗った
 方が良いでしょう。
 6、医薬品について
 携行する医薬品は、自分が
 いつも使い慣れているものが
 一番良いでしょう。
 内服薬では、鎮痛剤と胃腸
 薬、外用薬では防虫スプレー、
 痛み止め、湿布薬などあれば
 よいでしょう。
 包帯材料として巾の広い絆
 創膏、三角巾を用意すればよ
 いでしょう。

7、登山中の病気の予防
 ・熱中症について
 登山中は体内で熱がつくら
 れます。この熱がどんどん発
 散されないと体内に熱がこもっ
 て、体温が上昇してしまいま
 す。そこで、私たちの体は汗
 をかくことで熱を発散させる
 ようにできています。
 汗が蒸発するとき、気化
 熱として余分な熱を奪ってく
 れるので快適に登山ができま
 す。しかし、気温の高い夏は、
 体の熱を発散させるために特
 にたくさん汗をかきます。

そのため体から水分と塩分
 が失われてゆきます。十分に
 水分と塩分の補給が行われな
 いと脱水状態になり、めまい、
 吐き気、頭痛、意識障害が現
 れてきます。これが熱中症で
 す。

症状と程度によっておおよ
 かに熱疲労、熱けいれん、熱
 射病に分けられます。
 熱疲労は、発汗に対して水
 分の補給が不十分で脱水状態
 となつて、循環血液量の低下
 により、循環虚脱となった状
 態です。涼しい所で水分を補
 給すれば回復します。

・熱けいれんは水分と塩分の
 喪失に対して水分の補給のみ



黒姫山で最初に発見されたゴニヤタイト
 (その後セラタイト⇒アンモナイトに進化して中生代後
 期に絶滅した。)

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

⑥ 石灰岩の古生物たち

青海石灰岩には、たくさんの古生物化石が含ま
 れています。黒姫山の頂上に立った人は、祠の辺
 りでフズリナやサンゴ・海綿動物などの化石に出
 合っているはずですよ。

黒姫山は、3億年も昔に、約1億年間に亘つて
 地球上に繁栄していた原生々物の遺骸から成つて
 いるのです。つまり、黒姫山の化石は、当時の地
 球時計であり、特にフズリナの進化形態は、示準
 化石として時代区分に利用されているのです。

石灰岩は全国各地に産しますが、青海産は堆積
 年代が永く、中間の欠除層がないので地質学的に
 貴重な存在になっています。産出化石には、頭足
 類・腕足類・腹足類・蘚虫・有孔虫・三葉虫・棘
 皮動物・サンゴや謎の虫コノドントなど多くの種
 類があります。頭足類のゴニヤタイト(アンモナ
 イトより古くタコの先祖)は1960年に私が最初に
 発見したものです。登山中に出合った化石たちに、
 生物の先輩として畏敬の念を感じませんか。

行った結果、血液の塩分が足りなくなつて血液が薄くなつた状態です。

0・9%の食塩水を補給すれば回復します。

・熱射病は脱水状態にとどまらず、体温調節機能が破綻した状態で高熱を伴います。命に係わるので、救援ヘリコプターを要請しなければならぬこともあります。

(次号つづく)

平成十三年度

日本山岳協会

総会報告

日本山岳協会(日山協)の総会が5月27日(日)に東京、岸記念体育館で開催された。通常総会に付議すべき議題は、既に評議委員会で審議されており、総会は、円滑に進行し、すべての提案議案は承認された。

大きな議事は、平成12年度事業報告、会計決算報告。

平成13年度事業計画、事業予算、及び、役員の変更である。

役員改選では、坂口会長

(栃木岳連)、清水副会長(京都岳連)が退任されて顧問に就任、新会長には田中副会長兼専務理事(埼玉岳連)が就任、山本副会長(都岳連)は重任、新たに、城 隆嗣(大阪府岳連)、高室陽二郎(山梨岳連)が副会長に就任した。

その他、特に報告すべき事項にとどめる。

※ 第40回記念全日本登山大会、開催地 滋賀県伊吹町、期日 8月24~26日、申し込み期日 6月末厳守

※ 登山研修会：主任検定員(日山協主催)

※ 新山協(主管) 期日 10月27~28日

新山協では、技術指導委員会が担当しますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

※ 青少年登山教室
ジュニア育成事業(新規)
目的：小中学生の若年層に、登山を通じてスポーツとしての登山と人と自然のかかわりのすばらしさを体験させる。

主催：(社)日山協
主管：各都道府県(新山協)

後援：文部科学省、都道府県教育委員会、都道

県教育委員会、都道

府県体育協会

※ ホームページの運用について。

各都道府県山岳連盟(協会)は、それぞれホームページを開設し運用している。

運用について、プライバシーの侵害には厳重に注意を払うとともに、犯罪などにまきこまれないように配慮する。

※ 事業案内、計画要項等の使用サイズの統一について。情報公開、書類の開示に対応、保存の関係から使用する用紙はA4判に統一する。

新山協の各専門委員会の行事案内等も、それぞれが異なる。サイズ、書式などを見直して、統一したほうがファイルが容易である。(藤井)

お知らせ

第十五回ジャパンプンカップ富山/城端大会

・とき 平成十三年八月十八~十九日

・会場 富山県城端町/桜池クライミングセンター

・主催 日本山岳協会/城端町

・参加資格 5・01以上のリード・クライミング経験者

・参加選手 新山協推薦選手/一般参加選手

・参加費 五千円(含保険)

・申込 七月二十七日まで

詳しくは、協会クライミング委員会稲田春男委員長まで

・中高年安全登山指導者講習会

・とき 平成十三年九月十四~十六日

・会場 三重県鈴鹿市山本町及び入道ヶ岳

・内容 講義/登山行動/救助訓練他

・申込 七月二十七日まで

詳しくは協会で中高年登山委員会山田弘二委員長まで

・とき 平成十三年八月十七~二十日(三泊四日)

・会場 国立立山少年自然の家/立山室堂/剣沢

・主催 国立立山少年自然の家/文部科学省登山研修所

・内容 講義/登山実習等

・参加者 集団登山の企画運営に携わる小・中・高校の教職員/青少年教育関係者/地域スポーツ指導者

・参加費 二万七千円

・申込 八月二日まで

詳しくは事務局諏訪恵一まで

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

編集こうき

▲日本の夏への関門である梅雨も明け、いよいよ夏山シーズンの到来です。山頂での冷たいビールの美味しいときでもあります。飲み過ぎて事故にならないよう頑張りましょう。

▲新山協ニュースが皆さんへ届くまでのスケジュール。

原稿締切り毎月五日まで・十日レイアウト原稿を印刷屋へ送付・発行日が二十日・発送十八日前後。したがって、原稿は遅くとも毎月五日まで編集委員会まで届くようお願いいたします。特に行事等のお知らせは、前月号にのせられるようご協力下さい。

(正)